

# なごみ

nagomi



JA愛知厚生連  
江南厚生病院

Vol. 51  
2020.10

## 病院理念

- 一、私たちは「患者さん中心の医療」を実践します
- 一、私たちは患者さんの安心と信頼を得るように努力します
- 一、私たちは医療人としての誇りと自信を持って行動します



ドローンにより病院上空から撮影

コラム

## 1. 生殖補助医療 (ART) について

## 2. 新型コロナウイルスでやりがちな間違った感染対策について

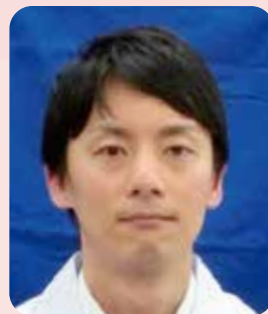
## トピックス

ボランティアの活動紹介  
パワーアップした乳がん検査の紹介  
高齢者の住まいについて  
お仕事紹介～訪問看護師～  
産後ケア事業について

## お知らせ

みなさんの健康と安心・安全のために  
2020乳がんイベント(動画配信)のお知らせ  
新型コロナウイルスの影響による医療物資等の寄贈について  
診療日カレンダー

# 生殖補助医療 (ART) について



第一産婦人科 部長  
生殖医療専門医 松川 泰

生殖年齢の男女が避妊をせず一定期間性生活を営んでいるにも関わらず妊娠の成立をみない場合を不妊症と呼び、我が国ではその期間を1年としています。不妊症に対しては、原因に応じた治療を行い、保険適用のものから自費のものまであります。生殖補助医療 (ART) とは、体外受精をはじめとする、近年進歩した新たな不妊治療法を指します。体外受精胚移植法が、不妊症の治療法として臨床応用され、1978年イギリスで最初の赤ちゃんが誕生しました。その後世界の多くの国々でこの治療法が実施され、わずか40年たらずの間に既に世界中で400万人以上が誕生しています。現在日本では年間24万件以上の採卵、24万件以上の胚移植 (日本産科婦人科学会のART登録データ2017年より) が行われており、1年間に出生する赤ちゃんの約6.0%が体外受精胚移植で成立した妊娠によって生まれています。ARTが始まった1980年代は、この治療を行えるのは大学病院のような先進的な医療が可能な施設のみでしたが、技術が安定し、培養の器具や試薬が一般化したことから、現在我が国においては全国のどこの病院やART専門クリニックで治療を受けても、大きな違いがないレベルまで不妊治療は発展してきています。この度、当院においてARTを再開しました。尾北地区においてはARTを受けられる施設は少なく、不妊症に悩む患者さんの一助となれば幸いです。

ART (Assisted Reproductive Technology) とは

- ① 体外受精 (IVF) : 卵巣から取り出した卵子に精子を会わせる (媒精) 技術です。
- ② 顕微授精 (ICSI) : IVFの媒精で受精できない場合、精子1個を卵子の中に注入する技術です。
- ③ 胚移植 (ET) : 子宮の中に受精卵 (胚) を戻すことです。
- ④ 卵子・胚の凍結保存 :  $-196^{\circ}\text{C}$ の液体窒素の中で卵子や胚を長期間凍結保存する技術です。

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響により一般不妊治療 (タイミング、排卵誘発、人工授精など) についても延期しておりましたが、日本生殖医学会より再開の通知を受け、治療を再開しております。ARTを含めた不妊治療の適応や詳細につきましては、産婦人科主治医にご相談ください。



# 新型コロナウイルスでやりがちな 間違った感染対策について

感染制御課長  
感染管理認定看護師 仲田 勝樹



新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、日常生活でマスク着用が浸透している今日この頃です。スーパーなどでは、社会的距離（ソーシャル・ディスタンス）をとるため、レジの前の床に足形のマークがあったり、レジにはビニールカーテンなどで防護壁がしてあったり、レジの店員さんが手袋を着用していたりという状況を見かけます。感染対策への関心が非常に高いと思う反面、“あれっ？”と思うことが感染制御を担当している私たちから見ると多くあります。

たとえば手袋です。手袋を使用することは良いのですが、いつ交換しているのか、交換するときに手指衛生をしているのかが重要なポイントです。医療現場でも手袋を使用しますが、患者さんごとに手袋を新しい物へ交換し、手袋をはずした後は必ず手指衛生を行っています。なぜなら、汚染された手袋や手指により、自分や他の人へ感染をひろげることがあるからです。日常生活では、手袋よりもこまめに手指消毒をするほうが効果的です。

このように、感染対策はとても大切ですが、正しく理解して行わなければ感染を拡大させるリスクもあります。正しい感染対策ができるようにしましょう。



## ボランティアの活動紹介

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、従来のボランティア活動もすべて自粛しています。ボランティアの姿が院内から消えて、患者さんや職員一同寂しい気持ちになると同時に、安全な環境づくりの必要性を感じています。そうした中、新たな活動をはじめましたのでご紹介します。

### 畑のボランティア

こども病棟に入院している子ども達への食育の取り組みとして、院内の畑で野菜を育てています。土づくり、苗植え、育成に全面的にサポートをいただいているボランティアの活動に感謝いたします。

収穫の喜び、収穫後の食べる喜びを味わっています。



### 手術室で使用する 保護帽子の作成

医療材料がひっ迫する中、手縫いやミシンなどで不織布を縫い合わせていただいています。お蔭さまで、手術の際に大変役立っています。ありがとうございます。



# パワーアップした乳がん検査の紹介

放射線技術科 戸田 智香

乳がんは日本人女性が最もかかりやすい癌です。早期発見すれば、高い確率で治る可能性があります。まずは自宅で月1回の自己検診から、そして定期的に乳がん検診を受ける事が、早期発見への第一歩です。当院では、乳がんの検査には欠かせないマンモグラフィ装置と乳腺超音波装置が最新鋭のものとなり、さらに精度の高い検査を提供できるようになりました。マンモグラフィ検査では、3Dマンモグラフィが撮影できるようになり、今までは乳腺に隠れていた病変が、乳房を薄くスライスした画像を出力することで見つけやすくなりました。（図1）乳腺超音波検査では、しこりの硬さを色表示する事で良悪性の判別に役立つエラストグラフィも可能です。

（図2）また、専門医、認定診療放射線技師が在籍しており、質の高い医療を提供しています。両検査とも女性の診療放射線技師が検査を行っておりますので、不安な事やご質問等ありましたら、お気軽にお声がけ下さい。



図1：マンモグラフィの画像（Hologic社）

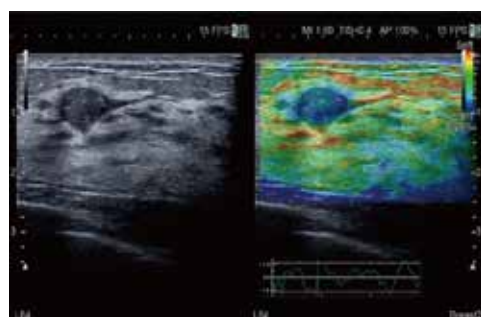


図2：乳腺エコーの画像（日立製作所 HP より）

## 高齢者の住まいについて



高齢者の住まいには、様々な種類があります。自立している方、食事や排泄、着替えなど日常生活に介護が必要な方など、その方の状態により対象となる施設が異なります。

生活上に介護が必要な方の場合は、特別養護老人ホームや有料老人ホームがあります。認知症がある場合は、グループホームも対象となる場合があります。

特別養護老人ホームは、「介護認定が要介護3以上」であることが条件です。有料老人ホームと比べ費用負担の少ない施設が多いですが、待機者の状況により入所までに長く時間がかかることもあります。

有料老人ホームには、外部サービスを受けられる「住宅型」と施設職員によるサービスを受けられる「介護付」があります。施設により自立の方から入居可能な場合もありますが、多くの場合が介護認定を受けている方を対象としています。

目的や入所条件、かかる費用、医療の体制、入所中に状態が変化した場合の対応などは施設により異なります。施設をお考えの際は、条件やサービス内容などを確認し、見学をした上で、ご希望に合った施設を選ぶことが大切です。

患者相談支援センター



## ～訪問看護師のお仕事について～

訪問看護とは、病気や障がいをもった人が住み慣れた地域やご家庭で、その人らしく療養生活を送れるように、看護の専門職（保健師、看護師、助産師、准看護師）やリハビリテーションの専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）が生活の場へ訪問して、看護ケアを提供し、自立への援助を促すことで、療養生活を支援するサービスです。

対象は、子どもから高齢者、病状や障がいが軽くても重くても、訪問看護を必要とする全ての人が受けられます。訪問時間と回数は介護保険と医療保険の場合とで変わりますが、1回の訪問時間は30分～90分程度です。ご本人やご家族のご希望を伺って、どれくらい訪問すればよいか決めます。病気や状態によっては毎日、複数回伺うこともできます。

訪問看護を利用したい時はお住まいの市町の地域包括支援センター、ケアマネジャー、かかりつけの医師、病院の患者支援センターなどにご相談下さい。



## 当院で産後ケア事業が始まりました



産後ケア事業とは、出産後体調や育児に不安のあるお母さんが安心して子育てができるよう、市が委託する医療機関で宿泊や日帰りにより、お母さんと赤ちゃんの心身のケアや育児サポートなどが受けられる事業です。

当院では、令和元年より宿泊を利用したケアを岩倉市の委託で開始し、令和2年度は江南市、犬山市、岩倉市、扶桑町、大口町の3市2町へ拡大しました。地域の保健センターと連携し、これまでに2名の双胎育児支援を行いました。入院中は、担当助産師がお母さんの授乳希望に添って、授乳計画を立てケアを実践しました。利用者からは、「双子の育児について具体的になった、不安を聞いてもらい安心した。」などの声が聞かれました。

昨今、子育てについては、核家族化による家族支援の減少、孤立した育児など様々な問題が起こっています。当院では、お母さんが安心して育児ができるような地域づくりを、これからも保健機関と連携を図り行っていきたいと思っています。



ご不明な点は下記連絡先へご連絡下さい。

江南厚生病院 2階 患者相談支援センター  
産後ケア担当者 鈴木・野田  
TEL.0587-51-3310 (直通)  
月～金曜日 8:30～17:00



# みなさんの健康と安心・安全のために

## 江南厚生病院の院内感染防止に向けた取り組み

### 発熱患者さんへの対応

正面玄関にて発熱等の症状確認を行っています。症状のある方は、一般診療エリアとは別の場所で診察を行っています。



### 面会謝絶の実施

医師・看護師が認める場合（面会証・付添許可証がある方）を除き、面会できません。検温と手指消毒を実施しています。



### スタッフの健康保持

検温を徹底し、体調不良時は自宅待機としています。常時マスク着用、手指消毒を徹底しています。



### 環境衛生の徹底

手指消毒液の設置・飛沫防止対策の実施  
椅子やカウンター等の消毒・24時間換気  
トイレでのエアータオルの中止 など



新型コロナウイルス感染を避けるために必要な受診を控えてしまうと、ご自身の病状が悪化してしまう可能性があります。当院では、適切な感染防止対策を実施していますので、自己判断で受診を中止することなく、安心して受診していただきますようお願いいたします。

## 2020乳がんイベント(動画配信)のお知らせ

10月は乳がん月間です。乳がんの予防や知識、当事者に必要な情報など、10月中旬にインターネットを利用した配信を行います。詳しくは、ホームページ、院内のチラシ案内などご参照ください。

多くの方が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、不安を抱えながら自粛した生活を余儀なくされています。患者さん向けの情報発信の場を企画することも困難な状況ではありますが、「私たち医療者にできることは何か」を考え、情報提供の機会を作りました。

### 【内容(予定)】

■講座：乳がんについて・乳がん体験談・乳がん検診について・リンパ浮腫について・情報提供などを予定しています。

<問い合わせ先>患者相談支援センター：がん相談 TEL (0587) 51-3346 FAX (0587) 51-3317



新型コロナウイルス感染防止のため、当院に対して複数の企業・団体、個人の皆様からマスク等の医療物資をご寄贈いただき、そのご厚意に心より感謝しております。まだ新型コロナウイルス感染症拡大が続いていますので、ご寄贈いただいた医療物資は大切に使用させていただきたいと思っております。職員一同、今後も地域の皆様に安心・安全な医療を提供できるよう努めてまいります。



## 2020年(令和2年) 診療日カレンダー

■ 休日(土曜・日曜は休診です)

10月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

12月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

発行日/令和2年10月1日

発行/JA愛知厚生連 江南厚生病院 広報委員会

〒483-8704 愛知県江南市高屋町大松原137番地 TEL (0587) 51-3333 FAX (0587) 51-3300